



平成 17 年 3 月 28 日

各 位

会社名 タカラバイオ株式会社  
(コード番号 4974 東証マザーズ)  
本社所在地 滋賀県大津市瀬田三丁目 4 番 1 号  
代表者 代表取締役社長 加藤 郁之進  
問合せ先 常務取締役 木村 睦  
TEL (077) 543-7235  
URL <http://www.takara-bio.co.jp/>  
当社の親会社 宝ホールディングス株式会社  
代表者 代表取締役社長 大宮 久  
(コード番号 2531 東証、大証第 1 部)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 16 年 12 月 7 日の中間決算発表時に公表し、平成 17 年 2 月 4 日の第 3 四半期業績の発表時にこれを変更しないこととした平成 17 年 3 月期(平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 17 年 3 月期連結業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	15,616	153	5
今回修正予想(B)	13,727	987	1,230
増減額(B-A)	1,889	1,140	1,224
増減率(%)	12.1	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 16 年 3 月期)	13,592	128	62

#### 2. 平成 17 年 3 月期通期業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	14,557	89	15
今回修正予想(B)	12,625	742	1,035
増減額(B-A)	1,932	832	1,050
増減率(%)	13.3	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 16 年 3 月期)	12,892	85	167

### 3. 修正の理由

業績修正の原因は、主として当社単体業績における状況の変化であります。第3四半期（平成16年4月～12月）が終了した時点で、売上高、経常利益及び当期純利益は全て計画比未達となりましたが、当社の主たる事業である遺伝子工学研究分野において、直近平成16年12月単月の売上高実績が当初計画比及び前年同月比で大きく上回っていたこと

同分野では、その顧客特性が大学や国公立の研究機関が大半を占めることから、例年第4四半期の売上高の通期売上高に占める割合が大きいこと

などの理由から、第3四半期までの計画未達分は第4四半期（特に最需要期である3月）に回復可能であると考えておりました。しかしながら、最需要期である3月の状況は計画に比較して芳しくなく、遺伝子工学研究分野の全般において当社の期待する売上高を獲得することが困難な状況となって参りました。

また、医食品バイオ分野においては、第4四半期に入ってハタケシメジの大手スーパーマーケットにおける取扱が決まるなど一定の成果も出てまいりましたが、昨年の猛暑及び暖冬の影響を受けたハタケシメジの販売価格の下落による第3四半期までの計画未達分を埋めることはできない状況であります。

以上の結果、連結・単体とも売上高は計画比未達となり、販売費及び一般管理費の節減に努めましたものの、経常損失の計上を余儀なくされる見込みであります。

また、当社単体におきまして当期に税務上の繰越欠損金が発生することから、繰延税金資産の回収可能性を再検討いたしました結果、当社の現在の事業計画では、遺伝子医療事業の進捗に応じて研究開発費の投下が必要となりますので、当面当社の収支は均衡状態が続くものと予想され、保守的に見て翌期に見込まれる課税所得の範囲内で翌期の一時差異等のスケジューリングの結果に基づき繰延税金資産を計上することが妥当であると判断し、繰延税金資産を約4億3千6百万円取り崩すことにいたしました。

以上のことから、誠に遺憾ながら前回発表の業績予想を修正せざるを得ない状況に至ったものであります。

（注）業績予想につきましては、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであります。従いまして、今後発生する状況の変化によっては、実際の業績はこれらの数値と異なる場合があります。